

中坪の歩み

発行
中坪の歩み
研究委員会

農地・水 「手良の会」

枯れ草焼却作業

一転二転ようやく実施

昨年初めて取組んだ農地・水「手良の会」の手良地区一斉枯れ草焼却作業。

本年はご承知のような天候不順。当初の予定2月23日実施が大雪のため延期。それから続く土日毎の大雨のため、

計画は、一転二転の有様。ようやく実施できたのが3月16日。

役員の方々には何回となく、日程変更のための人員確保に奔走して頂きました。前々日に降った雨の影響が心配されましたが、予定された作業を無事終了することが出来ました。

参加された皆様、ありがとうございました。

また、「農地・水」中坪支部独自の活動として、次は重機による農道整備作業を予定しております。ご承知おき下さい。

(農地・水中坪支部事務局)



中坪の新1年生

郷之坪常会

平成26年度の手良小学校への入学予定児童数は21名で、中坪のピカピカ1年生は7名となっています。

お名前は以下のみなさんです。

- 酒井南侑さん
- 高橋 晟くん
- 高橋琉維くん
- 上村常会
- 伊藤兼真くん
- 神林咲子さん
- 田屋常会
- 菅野緑郎くん
- 梶島朋美さん

清水寺 本堂建設は下の段に

清水寺増信徒の総会が3月8日に中坪公民館で行われ、清水寺本堂建設について協議され、本堂は現在地でなく下の段の郷之坪「キタノヤ電器」の上の段の場所に建設することが決まりました。今後、中坪の景観も大きく変わることが予想されます。

清水寺増信徒の総会が3月8日に中坪公民館で行われ、清水寺本堂建設について協議され、本堂は現在地でなく下の段の郷之坪「キタノヤ電器」の上の段の場所に建設することが決まりました。今後、中坪の景観も大きく変わることが予想されます。

清水寺の現在の本堂は明治35年(1902)当時、空家になっていた民家を移築して建てられたもので、以後110年近く経っています。その後、何回か部分的な修復を図っていますが、建物の傷みは予想を越えたものがあり、平成21年に研究委員会を発足して研究をかさね、平成23年の総会で建設を決議しました。

清水寺の現在の場所「土砂災害警戒区域」に該当し、建築物を建築する場合は特別な構造にしなければならぬこと、また工事用の取り付け道路のこともあり工事費の増大が懸念されておりました。ちょうどその時、この地を離れた増信徒の方より「本堂建設に使ったら」と下の段の土地寄進の話があり、総会への提案になったものです。

建設委員会を立ち上げ検討

考察

中坪の昔(12)

江戸時代中坪村のお隣であった高遠藩について今回は書いてみたいと思います。

江戸時代中坪村のお隣であった高遠藩について今回は書いてみたいと思います。天正10年(1582)3月2日晩からの織田信忠軍の一斉攻撃を受け激戦の末、仁科盛信はじめ配下の士多く討ち死に自害し、武田氏にとつて最後の砦を失い、織田氏と武田氏の最後の戦いとなりました。保科正直、内藤昌月とともに高遠を奪い返しました。大まかな高遠藩の歴史は左の表の通りですが、領主によって税はずいぶん違うようです。

料が残っていないので細かいことは残念ながら分かりませんが、代わって高遠藩の領主となった、鳥居氏ときは相当厳しかったようです。高遠藩の農民3000人が天領へ逃げ込み、代官に訴えたという記録があります。(承応3年・1654 6月)。この天領とはこのことかと調べてみましたが、中坪村や野口村ではなく、当時天領だった西箕輪地区か西山を越えた木曾の福島の村々へ、南箕輪地区の村々の農民か、西春近地区の農民ではないかと思われまます。

とにかく大変な取立てではなかったかと思われまます。米の年貢を調べてみますと多いときは約6割3分、少ないときでも5割4分ぐらいいです。米に対しての年貢はかりでなく、大豆・小豆・蕎麦・荳(えごま)・大麦・ぬか・わら・薪・胡桃・真綿・洗柿など、さらに振り売り(天秤を担いで商いをする)水車・紺屋・油・蚕種・酒屋などの運上金(所得税)・狐島・殿島・中越の村々には鶴遣い運上金を課していたといひます。

保科氏は正光・正之の二代約35年間高遠藩を治めました。正光は高遠で育った武士ですので知人も多く、土地へのなじみも多かったので課税などは寛大であったようです。資料によつては「数千の農民が」といふのもありますが、逃げ込まれた地区の古い資料には、一切このことについての記載がないので確かなことは分かりません。

一番大切な 田や畑を捨てて逃げ込んだほどですので、

「高遠四百年 高遠藩時代史」高遠町史(歴史編)

とにか、中坪村よりは厳しい取立てだったことは確かです。 *参考文献 (神林)

資料によつては「数千の農民が」といふのもありますが、逃げ込まれた地区の古い資料には、一切このことについての記載がないので確かなことは分かりません。

一番大切な 田や畑を捨てて逃げ込んだほどですので、

「高遠四百年 高遠藩時代史」高遠町史(歴史編)

とにか、中坪村よりは厳しい取立てだったことは確かです。 *参考文献 (神林)

和暦	西暦	藩主	出来事
慶長5年	1600	保科氏	11月1日保科正光下総国多胡から2万3千石にて高遠の領主となる。
寛永13年	1636	鳥居氏	6月21日保科正之出羽国山形領最上20万石にて転封。鳥居忠治春山形より3万2千石にて高遠領主となる。
元禄2年	1689	幕府領	7月23日江戸城馬場先御門警備中に高遠藩家臣高坂権兵衛が不忠を行い、高遠藩主鳥居忠則は自害。8月10日高遠領主鳥居忠則は改易となり、領地は松本領主水野忠道が預かり、高遠藩領地は幕府領となる。
元禄3年	1690		松代藩が幕命により高遠領総検地を行い、この結果高遠領は3万9千石となる。これまで高遠領地であった、筑摩郡和田村ほか13カ村(現在の松本市和田・今井、山形村)は上収されて幕府領となる。
元禄4年	1691	内藤氏	2月9日幕府 撰津国富田領主(前大坂城代)内藤清枚を高遠領主とする。3万3千石。(当時大阪は「坂」の字を使用)
明治2年	1868		6月20日 高遠藩主内藤頼直、藩籍奉還。高遠藩「知藩事」に任命される。

中坪の風

4月となりこの間までの大雪が嘘のように、暖かな日が続いています。よくしたもので時期だなーと思います。

この4月は節目の月でもあり、入学、就職と新たな人生のスタートを切られる方も多いと思います。それぞれ、今の思いを大切にされ、ここで育った事を忘れないで、夢を叶えて欲しいと思います。

又小学生の集団登校も始まります。児童が減ってきている中で活気があつて頼もしく感じまます。

さて春先は、追われる様に農作業も始まります。特に今年は大雪の影響で畑作りが遅れており一気に忙しくなりました。でもこの時が一番充実しています。

仕付けが終われば一段落、そして夏、暑さの中での草刈、管理作業、気が付けばお盆、そして収穫。そう考えると1年は本当に短いと思ひます。

いつも思う事ですが、今年こそは、何か一つ形にして残せる1年にしたいと思ひます。

(I・K)

